



▲第2号墳の開口状況



▲第5号墳の開口状況



▲第3号墳の開口状況



# History

キラリを再発見

## 5基の横穴が山林中に残存

小堤ケ谷横西穴群は、比木名波地区市道玄保宮木ケ谷線沿いの名波老人憩いの家北側、宅地裏側の山林中に5基の横穴が残存しています。

5基の横穴は西から第1号墳～第5号墳と呼ぶことにします。第2号墳は平面形が楕円形で断面がドーム状、全長4.4<sup>㍎</sup>、遺体を埋葬する玄室は幅が2.86<sup>㍎</sup>、高さ1.7<sup>㍎</sup>、奥行2.4<sup>㍎</sup>です。入口から玄室までの通路である羨道は、幅0.95<sup>㍎</sup>、高さ1.05<sup>㍎</sup>です。

第3号墳は平面形がほぼ円形で、断面はドーム状、現況の全長は2.93<sup>㍎</sup>です。玄室は幅が1.7<sup>㍎</sup>、天井高1.4<sup>㍎</sup>です。第5号墳は平面形が略方形で、現況の全長が3.2<sup>㍎</sup>、玄室の幅が2.35<sup>㍎</sup>、高さが1.58<sup>㍎</sup>、奥行が1.8<sup>㍎</sup>、玄門幅が1.2<sup>㍎</sup>で、羨道幅が0.8<sup>㍎</sup>です。

第1号墳と第4号墳は埋没しているため構造や規模などは不明です。また、5基とも発掘調査をしていないため副葬品などについては不明です。

照 会 社会教育課 ☎0548⑧1129

# Atomic

暮らしと原子力

安全性向上対策の  
工事内容の一部見直しについて

中部電力は10月31日、浜岡原子力発電所4号機の原子力規制委員会による審査会合や、審査が先行する他社の発電所で進む新規基準の適合性審査の内容などを踏まえ、4号機の対策工事の一部について工事内容を見直すこととし、市へ説明を行いました。今回の主な工事内容の見直しとしては、増設する緊急時対策所の再設計や緊急時車両用の地下式燃料タンクと防火壁に仕切られた部屋への非常用電源設備および換気設備の分散設置、5000力以上の自動消火装置の追加設置など、主に重大事故時の現場対応力向上などを目指したものととなります。



込みであり、4号機は平成28年9月頃、3号機は平成29年9月頃となる見通しとの説明がありました。倉田総合事務所長から説明を受けた石原市長は「住民の信頼をさらに獲得するためにも着実に安全性向上対策工事には力を注いでほしい」と話しました。